

この辞典の特色

① 基本思想が違う

- ◆『新潮日本語漢字辞典』は「日本語としての漢字」を知るための辞典。これまでの漢文を読むための漢和辞典とは根本的に違い、全く別物といっていいほどである。

②字義が違う

◆「字義」とは漢字1字が持っている意味のこと。これを、日本語での意味を中心に説明した。熟語で使われている例と文学作品からの用例が一体となって、漢字の意味が鮮明に浮かび上がる。

③熟語が違う

◆「海運」「海外」のような音読熟語は、よく使う言葉を中心に採録。さらに「海燕」「海原」のような訓読み、「秋桜」「硝子」などの外来語など、日本語特有の言葉を多数収録した。

④熟字訓が違う

◆熟字訓とは、熟語全体を訓読したもの。「海」のつく熟字訓は、このほかにも「海女」「海老」「海苔」「海胆」「海豚」「海豹」「海月」「海星」など、30以上を収録した。

⑤ 異体字が違う

◆「海」は「海」の旧字、「纂」は「サンズイ(水)」と「毎」を上下に置き換えた字。他にも、日本独特の異体字、手書きに使われる異体字など、各種の異体字を収録した。

⑥用例が違う

◆用例は日本の近・現代文学から採録。右ページの組見本でも夏目漱石『こゝろ』、尾崎紅葉『金色夜叉』、有島武郎『或る女』、菊池寛『俊寛』と、言葉の使い方が体得できるとともに、名文が味わえる。

⑦参考欄が違う

◆参考でこれまでの漢字の木版、注解点を説き、「海」の用例は昭和24年に旧字の「海」から新字体に変わり、さらに旧字の「海」は以前の人名漢字許容字体から、平成16年に人名漢字になったことがわかる。

⑧人名・地名が違う

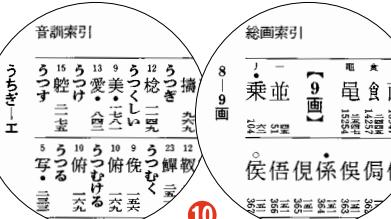
◆「海外」には「かいがい」「かいげ」と読む珍しい姓がある。「海外」を「かいと」と読めば神奈川県三浦市の地名。このように、普通の熟語を人名・地名で使う場合もしっかりカバーした。

⑨ アクセスが違う

◆右の欄外にはそのページに収録されている親字と、部首の画数を調べるツメ、上の欄外には検字番号、下の欄外には同じ画数の部首の一覧。これらを縦横無尽を利用して目指す字にたどりつける。

⑩索引が違う

◆索引は部首、音訓、総画、熟語と4種。なかでも熟語を五十音順に並べた熟語索引が超目玉。「海燕」を引きたいと思ったら、「うみづばめ」「かいえん」「たこのまくら」、どれからでも引ける。



(索引組見本は縮小してあります)

(右ページは原寸組見本)

來の。「海堂島・海石榴」^②、^⑥海軍・海上自衛隊の略「海自」^②、^⑦海上自衛隊「海尉・海尉相手」^②、「海軍・海上自衛隊」^②、^⑧「水金地火木土天海」^③、^⑨「五十」に掲げる。海拉爾^⑩。^⑩広韻の韻目。上声じよ第一第十五に属する。「人うみ・あま」姓氏の名。形声。水+人+每^{メイ}。大海の意解字 文博篆體を表す。

参考 ①昭和二十一年十一月の当用漢字表では「海」が選ばれたが、昭和二十四年四月の当用漢字字体表で「海」に字体整理された。常用漢字表ではいわゆる康熙字典の字形と活字として括弧内に「海」が掲げられている。(2)「海」は昭和十五年に「海」が採用された。(3)「海」は平成十六年九月に人名漢字に追加された。

【海菴】^{カイジン}海水魚の名。背は青灰色で、腹は銀白色。背鰭^{カキニ}の後ろが糸のようになる。食用。南太平洋・インド洋に分布し、淡水に住むものもいる。

【海域】^{カイイ}ある区切られた範囲の中の海。「日本の海域」^{カイイ}。領域(域)・水域。

【海員】^{カイエン}船舶の船長以外の乗組員。「海員組合」「軍人」といふよりは、海員とでもいふ感じしかその時まで持たれてゐなかつた私は「人心」^{カイジン}・船員・水夫。

【海宇】^{カイイ}「宇」は天地四方の意。国内外・天下・世界。

【海芋】^{カイモ}多年草の名。初夏、細長い漏斗のような白い苞葉^{カブテ}に包まれて花がつく。切り花用。阿蘭陀海芋^{アランダ}。

【海蘿】^{カイロ}海藻の名。黒褐色で、糸のように細かく枝分かれしていく。独特のぬめりがある。産地では生のまま、一般には酢の物などにして食べる。「水雲」とも書く。

【海運】^{カイウン}海上を行く船舶によって、貨物や旅客などを運送すること。「海運業」^{カイウンジヤ}・^{カイウン}水運。対陸運。

【海淵】^{カイエン}海溝の中でも特に深い部分。マリアナ海溝^{カイエン}のチャレンジャー・海淵^{カイエン}・フィリピン海溝のエムデン海溝^{カイエン}などがある。

【海燕】^{カイウ}海鳥の名。黒褐色の羽は細長く、尾は二つに分かれるが短い。水かかるが発達し、離島の地中を岩

〔6〕**海王星**〔かいおうじやう〕太陽系の第八惑星。

〔7〕**海花石**〔かいはせき〕珊瑚〔さんご〕の名。群体の骨骼は円塊または半球の形で、表面に菊の花のような模様がある。菊絆〔きくわき〕。

〔8〕**海外**〔かいがい〕菊目石〔きくめいし〕とも書く。

〔海外〕(一) 海の向こうにある外国。「不幸にも相手の学友は折から海外に遊學して在らず〔金色夜叉〕(くろねやさ)の海(かい)へ」。(二) 神奈川県三浦市地名。(三) 姓氏の一つ。(四) 神奈川県三浦市地名。(五) 姓氏の一つ。

〔海角〕〔かいかく〕陸地が海に突き出ている先端の部分。「彼は、毎日のやうに、近所の海角に出で、鯛を釣つた(海賊)」。

〔海閥〕〔かいばく〕が条約や法令によって、外國との通商や貿易を認めめた開港場〔かいこうじょう〕に設けた税関開港の徵收や輸出入貨物の審査などをを行う。もと中国の清代に設置したもの。

〔海岸〕(一) 海に接している陸地。「アース式海岸」と私は能く海岸が岩の上に坐つて、遠い海の外や、水の底を眺めました(こころ)。(二) 姓氏の一つ。(三) 姓氏の一つ。◆「海岸綱〔かいがん〕」陸と海の境界線。また、海岸に沿つて設けられた鉄道。

〔海気〕〔かいき〕(1) 海のほとりの大気。塩気を含み海の香がする。(2) 人々の注意の中心となつてゐた川田夫人を人情の匂いが返る(こども)。(3) 海にあって息をふき返した魚のやうな葉子(くず)を拂(ほ)いて見ると、或る魚(うお)。(4) 絹織物の名。滑らかで光沢があり、帶・羽織・座・布団・傘などに用いる。

〔海兵〕〔かいへい〕慶長以前に中國から輸入されたが、後には甲斐国(かい)の郡内に産が有名。◇「海黄・改機」とも書く。(3) 姓氏の一つ。

〔海技〕〔かいぎ〕船舶の乗組員が備えなければならない技術。資格ごとに國家試験が行われる。「海技免状」(4) 姓氏の一つ。

水氣氏毛比母叟止欠木月臼日无方斤斗攴支手戶戈心 [4画部首] 1278